

## JREユニオン新潟 第6回地方委員会

# 何が起きても慌てず行動できる体制を

2月22日、ジェイアール・イーストユニオン新潟地方本部の第6回地方委員会が、新潟駅大会議室で開催されました。議長には長岡支部の広川委員を選出し、船山執行体制一年の折り返し地点に、今後の活動方針などについて全員が真摯に討議しました。

執行部を代表し挨拶に立った船山地本執行委員長は、安全について「最近の安全を脅かす事象の多発傾向を受け、本部は安全の確保について申3号を行っている。会社は現状の体制と事象の関連性、連鎖性はないというが、技術継承や人材育成の進捗状況と無関係ではないと言えないのではないかとし、組織問題については、「東労組脱退社員は労働運動から解放された気持ちで満足しているようだ。社友会は親睦会であり交渉事の席につくことはないが、それでもかまわないという人が増えているのも事実。労働組合とは何かを伝えることは難しいが、自らも楽しみながら世話役活動で信頼を勝ち取っていきこう」と世話役活動の重要性を指摘しました。また、春闘については本部要求に対し「満額回答を得られるように全力で支援していく」と述べました。そして、会社や他労組、未加入者の動きなど注視すべき点多々ありますが、「何が起きても慌てずに行動できる体制を構築していく」ことを全組合員に訴えました。

続いて中央執行部を代表し挨拶に立った菅野本部執行委員長は、春闘について「純ペア 3000 円、もう 3000 円分を労働条件の改善で獲得していく。夏季手当については通期決算状況を見ながら申し入れをしたい」とし、安全については「グループ会社への業務の依存の拡大、ジョブローテーションの実施など、労働形態が変わっていく中で安全が確保されているかの交渉をする。現場の声が本社に届いているのか、総対話集会で皆さんの意見を集約し反映していきたい」と述べました。また、組織問題については「民主化闘争を約 30 年やってきて東労組の崩壊という形はできたが、労働組合としては我々が望んだ状況下にはない。東日本には現状 13 の組合がある。東労組は分裂したのではなく分散しただけ。会社は多数派の流れに乗ってきた歴史がある。我々の理解者を一人でも二人でも増やしてほしい。30 年間頑張った心の強さ、組織の強さはある。会社を良くして去ろうと思えば我々がやるしかない」と、組合員各自の一層の奮起を促しました。

### JREユニオン新潟 地方委員会



地本 船山  
執行委員長



本部 菅野  
執行委員長



広川議長

委員会は執行部から活動経過の報告と当面の方針が示され、5名の方から質疑を受けました。

- ◇離職する社員がいると聞く。グループ会社化で本体職場も少なくなるなか、会社には施策のしっかりした方向性を示してもらいたい。
- ◇研修の時期が冬期などの忙しい時期と重ならないようにしてほしい。
- ◇新幹線通勤が認められ遠距離通勤する社員もいるが、出勤時刻が始発列車に間に合わない行路も多い。宿泊設備など職場の状況も考えてもらいたい。
- ◇P編成の併合編成にはドン付きが激しいものがある。不安のない運転ができるようにしてもらいたい。
- ◇技術継承と人材育成がうまくいっていないと聞く。本体で出来ないものをパートナー会社に任せるような、問題の先送りが現状を招いたのではないのか。



本部 秋山  
副委員長

## 労働組合は、人に頼り、人に頼られる関係

それらに対し執行部からは金田業務部長が、「長距離通勤の問題は首都圏では何年も前からあることで、それが地方にも波及してきた。それが許容の範囲か否かは皆さんと議論した中で判断していきたい。現場の意見があるという事は、問題として会社に提起していくが、職場でも問題として管理者へ提起してもらいたい」と答えました。

また、本部から参加いただいた秋山執行副委員長からは、「研修期間については支社に問題提起してほしい。その議論を踏まえた後に、あり方を提起したい。ジョブローテーションについては説明する人がいない。労働組合がやっていた疑問の集約と解決が機能していない。その上に全体論も定かではない。本部に聞いてもらいたい事があれば、どんどん出してほしい。職場の声には敏感に対応してもらおう。ただ、どんな問題も職場管理者が知らないものを本社本部間でという事にはならない。まず現場で声を上げてもらいたい。人材育成についてはイースト案を出して問題提起している」と、本部の方針について説明を受けました。

集約答弁に立った池田事務局長は、「問題の共通部分には、会社の方向性を管理者も理解できないような中で、施策を出し続けている会社の姿勢にあるのではないか。それに労働者側の現在の状況が混乱を招いている。このまま放っておけば、安全という根本が脅かされてくるのではないかとの懸念がある。現場の声を地本へ、地本の声を本部へ上げていく。労働組合の根底には人に頼り、人に頼られる関係があると思う。私たちにはそういった人間関係が昔から備わり、今も崩れない

から、ここに根を張っている。人に頼られることには厳しい部分もある。厳しい部分も含めて次代に引き継げるのはイーストだけではないか。そのために組織拡大を頑張っていこう」と、委員会を結びました。

